

平成 28 年 6 月 1 日

各 位

会社名 インスペック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 菅原 雅史
 (コード番号: 6656 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役管理本部長 富岡 喜榮子
 TEL 0187-54-1888 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

決算集計状況を踏まえ、平成 27 年 6 月 12 日に公表した業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

平成 28 年 4 月期 (平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,500	210	170	100	38 円 44 銭
今回発表予想 (A)	1,628	△19	△41	△25	△9 円 61 銭
増減額 (B - A)	△872	△229	△211	△125	—
増減率 (%)	△34.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績	1,608	106	93	93	35 円 95 銭

2. 個別業績予想数値の修正

平成 28 年 4 月期 (平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,600	110	100	38 円 44 銭
今回発表予想 (A)	1,068	40	30	11 円 53 銭
増減額 (B - A)	△532	△70	△70	—
増減率 (%)	△33.3	△63.6	△70.0	—
(ご参考) 前期実績	1,558	108	94	36 円 47 銭

3. 連結業績予想数値の修正理由

連結売上高については、当社グループが属する半導体関連市場におきましては、主力製品であるAVI（自動最終外観検査装置）及びAOI（プリント基板のパターン検査装置）を中心に、当初計画時点ではリピートオーダーと新規顧客の開拓が期待されましたが、中国経済の景気減速の影響を受けるなど、特に海外の計画が大幅に未達となりました。また、国内における受注高については堅調に推移し前期実績を上回りましたが、受注時期の遅れにより売上計上が翌期に持ち越されたことから、当初計画を下回りました。

一方、利益面では販売管理費を前期実績以下に抑えるなど、各種経費の見直しを鋭意進めましたが、売上高未達の影響を補うことができず、計画値を下回ることとなりました。

当社の業績は、上半期実績を下半期実績が上回る傾向となっており、第3四半期経過以降、国内及び海外からの受注見込み案件に対し、短納期で納品・検収し売上計上できるよう対応しましたが、以下の理由により上半期の遅れを取り戻すことができませんでした。

セグメント別の業績としては、半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業は、主力製品であるAVI及びAOIの国内における引合いや受注は堅調に推移し前期実績を上回りました（受注計画10.5億円に対し103%の実績）が、納入時期が翌期（平成29年4月期）に持ち越されたことにより売上高が若干下回り（売上計画9.5億円に対し92%の実績）しました。海外においては、当初計画では廉価版のAV500を主としたAVIの売上を見込んでいたものの、中国経済の景気減速の影響を受けるなど低い水準（売上計画5億円に対し23%の実績）にとどまりました。

精密基板製造装置関連事業では、スイスフラン高や隣国フランスのテロの影響もあり、主力製品であるフォトプロッター（基板のフィルム原版を印刷する装置）の部材仕入先の業績不振の影響を受け、一部部材の調達の遅れによる納品遅れ及び検収遅れによって当初計画を下回り（売上計画7.5億円に対し72%の実績）しました。

また、デジタルパソロジー関連機器事業におきましては、遠隔医療検査等に使用するバーチャルスライドシステム(※)の国内市場の拡大が予想より進んでいないこと、海外進出においても準備期間に留まったことから当初計画を下回り（売上計画1.8億円に対し14%の実績）しました。

※ バーチャルスライドシステム（国際的な名称は、WSI：Whole Slide Imaging）

病理検査等に使用する高倍率・高解像度の顕微鏡画像をコンピュータに取り込み、デジタルデータ化して複数の病理専門医による診断や、遠隔地での診断を可能とするもの

4. 個別業績予想数値の修正理由

個別業績予想の修正につきましては、上記の半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業の修正理由と同様の理由により、売上高・利益ともに前回予想を下回ることとなりました。

（注）本資料に記載している業績予想等に関する将来に関する記述には、発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上